



ちょっと
昔の

くらしの道具図鑑

ちょっと昔に、ごく日常の生活の中で使われていた道具をとりあげました。昔の道具をじっくり見てみると、なつかしさやあたたかみを感じます。また、さまざまな知恵や工夫がこめられていることに気づかされます。昔の道具はいつも使っている言葉にも登場します。そのように多面的に道具を見てみると面白いものです。

ローラー付き電気洗濯機



このローラーを見てなつかしいと感じる方も多いと思います。家事の中でも重労働である洗濯の負担が大きく軽減されました。

ひのしと炭火アイロン



ともに炭を入れてその熱と重さで衣服のしわを伸ばしました。ひのしは平安時代にはすでに使われていました。炭火アイロンの船形はボタンやポケットに対応できるので洋服の普及とともに広がりました。

たらい



たんざく形に切った割り子とよばれる板を円筒形に並べて底をつけ「たが」と呼ばれる輪をはめて、全体をしめて作ります。写真のたらいは30枚の割り子からできています。

たらいと言葉 たらいまわし、たがが外れる

手回し式洗濯機



ぱっと見て洗濯機とわかる人は少ないと思います。昭和30年代に発売されたもので、中に洗濯物と洗剤とお湯を入れて手でぐるぐると回します。手でごしごしと洗うことから、画期的な進歩でした。しかし間もなく、電気洗濯機が発売され、10年余りで姿を消しました。

はがま



かまどにかけるためのつばが羽根のように見えることから「羽釜」の名前がついたといわれています。底は熱がまんべんなく伝わるように丸い形をしています。ふたはご飯が炊けるとききの蒸気をはきないように厚くて重くなっています。

はがまと言葉 「はじめちよろちよろ中ぱっぱ…赤子泣いてもふた取るな」はがまでおいしくご飯を炊くときの言葉です。この言葉やはがまの各部分の工夫を見ると、昔からおいしくご飯を炊くのに大変な努力をしてきたことがわかります。

ひきうす



そば、小麦、米、茶などをひいて粉にします。上臼と下臼にみぞがあり、ひかれた粉が外へ押し出されます。ひきうすの普及とともに粉物(うどんなど)も普及しました。

12月12日(日)まで
ム」も同時開催します。

開館時間 午前9時から午後5時

白黒テレビ



テレビを見るにはテレビの近くへ行き、スイッチを入れ、チャンネルを回し、ボリュームのつまみを回す必要があります。画像が乱れるとつまみで調整します。ブラウン管を収納するため、画面の後ろに距離が必要です。

手回し蓄音機



手でぜんまいを巻きさえすればどこでも音楽が聞けます。とても味わい深い音がします。

あんどん



時代劇によく登場します。ろうそくや油にひたしたひもの芯に火をつけ和紙の風よけでおおったものです。

あんどんと言葉 昼あんどん

ランプ



電気が普及する前の明かりとして一般的に使われました。ほや（ガラスのおおい）のすすをそうじするのは手の小さい子どもの仕事でした。

わらじとぞうり



わらじとぞうりは、同じようにわらで編んだはきものですが、わらじには足首にまきつけるなわがついていて旅など長距離を歩くのに適しています。ぞうりは今のビーチサンダルのようなつくりで日常履きとして使われました。

わらじと言葉 二足のわらじをはく
かね金のわらじでたずねる

げた



げたには、ひとつの木材をくりぬいて作った「連歯げた」と、台と歯を別々の木で作ってはめこむ「差歯げた」があります。

げたと言葉 げたと焼き味噌 げたも仏も同じ木のきれ げたをはかせる

人権の花運動報告会



10月25日（月）に、大口北小学校で人権の花運動報告会がおこなわれました。

5月に受けとったひまわりの種とハイビスカスの苗を、3年生の飼育園芸委員会を中心に大切に育てた様子が報告されました。子どもたちは花を育てることで仲間と協力すること、生命の尊さを学びました。取れたひまわりの種は、次年度に花運動を実施する扶桑町の小学校に渡されます。

ちょっと昔のくらしの道具図鑑 期間
なぞとき「マスカレードミュージア
歴史民俗資料館ご利用案内
休館日 月・火曜日 ※祝日は開館
入館料 無料 問合せ先 ☎ 94-0055